

医学教育分野別評価 弘前大学医学部医学科 年次報告書 2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和 3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 32

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

本学医学部医学科は、2021 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 を踏まえ、2025 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1. 1～1. 4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、使命について学内関係者への周知を行った。今後は、使命や学修目標策定の際に、学生や教員などのより多くの関係者の意見を収集する体制を構築し、見直しを図ることが課題である。

1. 1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 使命の中の「医学部のミッションの再定義」には地域医療への貢献に関する詳細な内容が記載されている。

改善のための助言

- ・ 医学部の使命として、「医学科の理念・目的」、「医学科の教育目的」、「ディプロマ・ポリシー」、「医学部のミッションの再定義」が挙げられており、これらの関係性を明確にして、教員や学生等に分かりやすく示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育の使命として「医学科の理念・目的」、「医学科の教育目的」、「ディプロマ・ポリシー」等をホームページとシラバスに記載し、教職員・学生に周知している。また社会の保健・健康維持に対する要請と医療制度からの要請として「医学部のミッションの再定義」を位置づけている。医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に則り、コンピテンス・コンピテンシーを大幅に改訂した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ、理念・目的等
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科の使命
- ・ 資料 104 弘前大学医学部医学科入学案内【HP】
- ・ 資料 105 弘前大学医学部医学科卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）【HP】
- ・ 資料 106 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和元（2019）～令和 5（2023）年度入学者】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 国際的健康、医療の観点について、より明確に使命に包含することが期待される。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

改訂されたコンピテンス・コンピテンシーに、国際的視野に立った研究をより推進すべく、リサーチマインドを涵養し、英語論文を読み理解した上で討論できる内容を含めた。また、国際的健康・医療の観点を含めた「医学科の理念・目的」の改訂を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ、理念・目的等
- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの作成に関わる委員会として、カリキュラム委員会、カリキュラム委員会実

務者会議、カリキュラム検討部門があり、それぞれの役割分担と自律性について整理して教育施策を構築し、実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会は、教員と学生を含む委員により構成され、学生からの教育に関する要望も反映されている。2026 年度からのカリキュラムの大幅な改訂に向けて、医学教育センター内に教育カリキュラム検討 WG およびクリニカル・クラークシップ WG を立ち上げて、カリキュラム改善を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 109 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 117 令和 6 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 120 弘前大学医学部医学科クリニカル・クラークシップ WG 委員名簿
- ・ 資料 121 クリニカル・クラークシップ WG 議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現行カリキュラムの課題に関して、より多くの教員が適切に提案できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「教育教授等」の称号付与制度により、教育業務を中心的に行う教員などのさらなる意欲向上と資質向上を目指している。教育教授・教育准教授・教育講師を含む委員で構成される臨床能力開発委員会では、臨床実習前教育の改善点、臨床実習で強化する教育内容について知識と情報を共有し、臨床実習入門への対応などを行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 122 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 123 弘前大学医学部医学科教育教授等称号付与者名簿
- ・ 資料 124 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会に関する申合せ
- ・ 資料 125 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会委員名簿
- ・ 資料 126 臨床能力開発委員会次第
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス

1.3 学修成果

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学修成果として卒業時コンピテンス（10 領域）および卒業時コンピテンシー（66 項目）を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果について学生および教員に十分周知し、理解を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に則った卒業時コンピテンス（10 領域）および卒業時コンピテンシー（59 項目）を定めた。また、講義と医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）の各項目について、対応マップを作成し、各教員による講義の振り返りと教員への医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）の周知を実施した。全ての学年で実施される新年度オリエンテーションでは学年ごとのアウトカムを提示している。「連携教育施設における FD」を開催し、学内外の教員に、診療参加型臨床実習によるアウトカムベースの学修成果について理解を促した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 130 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム
- ・ 資料 131 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学研究に関する学修成果に対応するために、医学教育センター内に臨床研究医養成部門を設置した。さらに、メディカルチューデント・アシスタント（MSA）を活用して医学研究に関する学習成果の向上を目指す予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 133 弘前大学医学部医学教育センター規程
- ・ 資料 134 国立大学法人弘前大学におけるメディカルチューデント・アシスタントの雇用に関する要項

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定に学生とより多くの教職員が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会に学生代表者が参画し、学生の要望を広く取り入れている。臨床能力開発委員会には、各科から選出された教育教授等が参画し、学習成果の策定に関与している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 135 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 136 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 137 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 117 令和 6 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各

実務者会議開催実績

- ・ 資料 122 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 123 弘前大学医学部医学科教育教授等称号付与者名簿
- ・ 資料 125 弘前大学医学部医学科臨床能力開発委員会委員名簿

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他医療職種、地域医療関係者や患者代表等、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療に関する学部教育を展開する地域基盤型医療人材育成センターでは、教育カリキュラム専門部会および事業評価専門部会を開催し、外部から行政専門職と他学専門家を招聘し、意見を聴取した。また、秋田大学との合同 FD において、臨床実習に関する創意工夫の意見交換を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 138 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の専門部会設置に関する申合せ
- ・ 資料 139 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 140 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会議事要旨
- ・ 資料 141 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事業評価専門部会委員名簿
- ・ 資料 142 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事業評価専門部会議事要旨
- ・ 資料 143 2024 年度医学教育センター主催 FD ポスター（3 月 5 日開催）

2. 教育プログラム

領域 2.2～2.8 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、カリキュラム委員会の活動を実質化し、臨床実習前カリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を 2022 年度に開始した。今後は、臨床実習において重要な診療科での実習期間の確保および経験すべき主要症候・疾患を学修できる環境を整備し、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応を継続的に図ることが課題である。

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 臨床推論能力を涵養するために4年次後期にPBLを3か月実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生と教員との議論をふまえ、カリキュラムの効率化のため、講義時間を減らす構成とした。
また、試験期間の設定と試験期間中の試験科目の日時設定のデジタル化を進めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 201 2025 年度 授業日程（3・4 年）
- ・ 資料 202 2025 年度 医学科 3・4 年次 期末試験日（案）
- ・ 資料 203 Automatic Generation of Exam Schedules

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

生涯教育につながるカリキュラムとして、基本的診察技術の向上のためにシミュレーション実習室を設け、実習を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 204 臨床実習 I（5 年次）におけるシミュレーター実習

2.2 科学的方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムを通して医学研究や臨床の実践に必要な、批判的・分析的な思考に基づく科学的手法の原理を体系的に教育すべきである。

- ・ 臨床実習の現場で EBM の教育を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に卒業時コンピテンシー「IX. 科学的探求」に対応した各学年のアウトカムの内容を再構築し、それぞれの教育マイルストーン（アウトカム）に効果的に教育プログラムを連結させ、カリキュラムを通して科学的探求能力育成が可能となる構成とした。2023 年度はこの構成カリキュラム運営により、科学的手法の原理の体系的な教育を実践した。2024 年度のカリキュラムの中では、社会医学、社会医学実習を中心に EBM に関する系統的な教育を展開している。研究室研修では、学生が主体的に研究に取り組み、研究成果をまとめて英語で発表することによって、初歩的な科学的手法を教育している。また、世界の医学情報を学ぶツールとしての医学英語を、1～4 年次までの学年を通してカリキュラムに組み込んでいる。また PBL ではシナリオの解決に必要な文献を自ら検索し、科学的根拠に基づいた討論を行っている。臨床実習入門においては、EBM の方法論や診療ガイドラインの意義と使い方について講義している。今後は EBM に関する教育をさらに体系的に実施するため EBM を独立させ、カリキュラムを通して体系的に教育することを検討していく。

2024 年度には、学生をメディカルチューデント・アシスタント（MSA）として採用し、研究に参画する制度を整えた。基礎医学と臨床医学の両面に精通した臨床研究医の養成を目指す。

臨床実習の現場での EBM 教育については、FD の開催を通じて教員への周知を図るとともに、臨床能力開発部門を中心に今後さらに深めていくように方策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 205 社会医学シラバス
- ・ 資料 206 社会医学実習シラバス
- ・ 資料 207 特別教育科目（研究室研修）シラバス
- ・ 資料 208 医学英語Ⅰ（クラス A）シラバス
- ・ 資料 209 医学英語Ⅰ（クラス B）シラバス
- ・ 資料 210 医学英語Ⅱシラバス
- ・ 資料 211 医学英語Ⅲシラバス
- ・ 資料 212 医学英語Ⅳシラバス
- ・ 資料 213 PBL シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス
- ・ 資料 214 令和 6 年度 弘前大学メディカルチューデント・アシスタント 採用者一覧

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 被ばく医療総合研究所の教員を中心に放射性物質の物理的性質から人体への影響まで、体系的な教育をしていることは、特色ある取り組みとして評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学の防災や被ばく医療教育を強化するために、医学科 1 年次学生全員が防災科学について学び、防災士資格の取得を推奨する科目を構築した。

また、臨床実習 I において、高度救命救急センターで実施される救命・被ばく医療対応コースを受講した医学科の臨床実習生に対し、医学部長から受講証を交付している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 215 環境と生活－弘前大学災害対応マネージャーその 1 防災科学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 216 医学・医療の世界－弘前大学災害対応マネージャーその 2 災害医学－（副専攻「放射線総合科学」科目）シラバス
- ・ 資料 217 持続可能な開発目標 SDG s－弘前大学災害対応マネージャーその 3 原子力災害の理解－シラバス
- ・ 資料 218 弘前大学医学部医学科救命・被ばく医療対応コース受講証交付に関する要項

2.3 基礎医学

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

基礎医学および臨床医学のカリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を開始した。具体的には、臓器別の学習の観点から、基礎医学の授業において臨床系講座教員担当の授業を導入している。

また、水平的統合・垂直的統合の一例として、神経系の解剖、病理、疾患を神経科学科目として行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 219 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8 年度 1～4 年生】
- ・ 資料 220 解剖学シラバス
- ・ 資料 221 生理学シラバス
- ・ 資料 222 神経科学シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを明確にした上で、組織的に教育方針を決定しカリキュラムに反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平的統合・垂直的統合を進めるために、各講座から協力できる内容、アイデアについて、アンケート調査を行った。その内容を参考に、具体的な講座間のカリキュラムでの協力関係を構築・実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 223 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 224 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学、および医療法学について、さまざまな科目にわたっている教育内容を整理・統合し、統轄責任者を定めて管理する体制を構築して、順次性を明確に規定した上で実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- 1 年次「医の原則」において、医療倫理、研究倫理、医療法学の基礎の授業を導入した。
- 1 年次「臨床医学入門」において、臨床の場での医療倫理にかかわる内容の授業を実施した。
- 2 年次「神経科学」において、動機付け、人の行動、行動の成り立ちの行動科学の基礎の授業を実施した。
- 3 年次「社会医学」において、医療関連法規の基礎を学ぶ授業を実施した。
- 3 年次「外科学概論」において、プロフェッショナリズムの観点から医療倫理の内容を組み込んでいる。
- 3 年次「神経精神医学 I」および「神経精神医学 II」において、行動科学の応用内容として人の行動と心理に関する内容を組み込んでいる。
- 4 年次「法医学」において、法律のかかわる医療・医学の問題に関する網羅的な内容を組み込んでいる。
- 4 年次「医療安全学」において、医療安全の観点から医療倫理、医療法学の内容を組み込ん

でいる。

4年次「症候学」において、日常臨床で高頻度に遭遇する症候・病態に対応できる能力や臨床推論を身につける授業を実施している。

4年次「臨床実習入門」に、医療倫理学、行動科学の応用的内容および医療法学を履修するプログラムをシラバスに明示し、授業を実施した。

以上のように、医療倫理学、行動科学、医療法学の順次性をシラバスに明示して、包括的に、行動科学・医療倫理学・医療法学について教育する体制を整備した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 225 医の原則シラバス
- ・ 資料 226 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 222 神経科学シラバス
- ・ 資料 205 社会医学シラバス
- ・ 資料 227 外科学概論シラバス
- ・ 資料 228 神経精神医学Ⅰシラバス
- ・ 資料 229 神経精神医学Ⅱシラバス
- ・ 資料 230 法医学シラバス
- ・ 資料 231 医療安全学シラバス
- ・ 資料 232 症候学シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関し、社会情勢や時代の変化に対応してカリキュラムを修正する体制を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関する授業は行われている。6学年を通じたカリキュラムの修正を実施する必要性について、医学教育センターなどで検討を継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 225 医の原則シラバス
- ・ 資料 226 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 222 神経科学シラバス
- ・ 資料 205 社会医学シラバス
- ・ 資料 227 外科学概論シラバス

- ・ 資料 228 神経精神医学Ⅰシラバス
- ・ 資料 229 神経精神医学Ⅱシラバス
- ・ 資料 230 法医学シラバス
- ・ 資料 231 医療安全学シラバス
- ・ 資料 232 症候学シラバス
- ・ 資料 127 臨床実習入門シラバス
- ・ 資料 233 医学教育センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 234 2024 年 12 月 18 日 教育カリキュラム検討 WG、クリニカル・クラークシップ
WG キックオフ・ミーティング資料

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」に学生が参加し、健康増進や予防医学、地域保健に関し体験する機会を早期から組み込んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習をより充実させ、臨床技能・医療専門職としての技能を早期から計画的に十分な期間をとって修得できるようにすべきである。
- ・ 学生が経験すべき主要な症候・疾患を定義し、臨床実習期間に十分修得できるようにすべきである。
- ・ 重要な診療科で十分に学修できるよう実習期間を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

診療参加型臨床実習をより充実させるための FD を開催し、医師法改正、門田レポート、診療参加型臨床実習等に関して情報共有するとともに、実習の質的改善を図った。

アンプロフェッショナルな学生への対応を検討し、「弘前大学医学部医学科アンプロフェッショナルな学生の定義と対応に係る取扱要領」を策定した。

診療参加型臨床実習をより充実させるため、これに先立ち早期から臨床の場に参加する早期見学型臨床実習導入を検討するとともに、他大学からの情報収集を行った。

臨床参加型臨床実習充実において、先進的な取り組みを行っている他大学へのサイトビジットを複数回行い、本学の臨床実習改善の参考とした。

診療参加型臨床実習の評価はもとより、その後の初期臨床研修の評価へとシームレスに継続できる CC EPOC の導入を検討している。また、診療参加型臨床実習における手技の向上を目的とした、シミュレーター実習室の開放に向けて準備を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 131 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ
- ・ 資料 235 弘前大学医学部医学科アンプロフェッショナルな学生の定義と対応に係る取

概要領

- ・ 資料 233 医学教育センター運営会議議事要旨（令和 6 年 10 月、令和 7 年 1 月開催）
- ・ 資料 236 第 35 回 医学教育指導者フォーラム 開催要綱
- ・ 資料 237 富山大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 238 新潟大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 239 高知大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 240 筑波大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 204 臨床実習 I（5 年次）におけるシミュレーター実習

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 臨床医学教育のカリキュラムを社会の変化に対応して、組織的・体系的に調整や修正することが望まれる。
- ・ 2 年次学生、3 年次学生の教育段階に合わせて、患者診療への参画を深めることが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせ、臨床技能教育を適切な時期に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に対応するため、医学科の理念・目的、卒業時コンピテンシ・コンピテンシーおよびカリキュラムマップの見直しを行った。

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に対応するため、各講座にモデル・コア・カリキュラムへの対応状況に関してアンケート調査を行い、カリキュラム改正の参考資料とした。

カリキュラムの水平的統合・垂直的統合に向けて、各講座に水平的統合・垂直的統合に関するアンケート調査を行い、カリキュラム改正の参考資料とした。教育カリキュラム検討 WG において、1～3 年次における見学型臨床実習の実施に向けて検討を行った。

3 年次、4 年次の講義数を削減し、臨床実習を前倒しすることで、早期に診療参加型臨床実習が行えるようカリキュラム改正について検討を行った。

6 年次臨床実習において、学外実習施設における長期滞在型臨床実習（LIC）の導入を検討し、サイトビジットによって他大学の調査を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 102 弘前大学医学部医学科理念・目的【HP】
- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 108 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4

年度改訂版)

- ・ 資料 129 (5～6 年・臨床実習) コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム (R4 年度改訂版)
- ・ 資料 223 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 224 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨 (令和 7 年 3 月開催)
- ・ 資料 219 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8 年度 1～4 年生】
- ・ 資料 201 2025 年度 授業日程 (3・4 年)
- ・ 資料 238 新潟大学へのサイトビジット (報告)

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 診療参加型臨床実習前に基礎と臨床のつながりを意識し、臨床推論能力・問題解決能力を涵養するカリキュラムを十分な時間をとって配置している。

改善のための助言

- ・ 教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示したカリキュラムマップを作成し、教員と学生が教育プログラム全体を十分に理解できるようにすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラムマップを、医学部医学科のシラバスおよびホームページにおいて提示している。学生および教員のカリキュラムマップの理解、受講および担当教科のプログラム上での意義の理解を深める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ、理念・目的等
- ・ 資料 241 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ【HP】

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 関連する科目の水平的統合・垂直的統合を推進し、より効果的な教育体系を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

水平的統合・垂直的統合、講義時間の短縮について、学生と教員、医学教育センターなどで

の検討を持続しており、変更に応じてカリキュラムマップを含めたシラバスへの反映を継続する。また、水平的統合・垂直的統合の実施に向けて、各科目の代表教員にアンケート調査を実施した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 201 2025 年度 授業日程（3・4 年）
- ・ 資料 219 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8 年度 1～4 年生】
- ・ 資料 223 水平・垂直統合についての意見
- ・ 資料 224 水平・垂直統合以外の教育カリキュラム再編成に関する意見

2.7 教育プログラム管理

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 組織の中でカリキュラム委員会の位置づけを明確にし、規程を定めて責任と権限を持ってカリキュラムの立案と実施に対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター内に「教育カリキュラム検討 WG」を設置し、カリキュラム委員会と連携しながらカリキュラムの立案を実施している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育カリキュラムの改善と実施について、カリキュラム委員会の活動を実質化することが望まれる。
- ・ カリキュラム委員会に広い範囲の教育の関係者の代表を含み、その意見をカリキュラム改善に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育カリキュラム検討 WG ならびにカリキュラム委員会（学生代表を含む）を定期開催し、活動の実質化を図っている。また、カリキュラム委員会および学務委員会に医学教育の専門家がオブザーバー参加している。

現在の教育カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、広く意見を求めた。アンケート結果について、医学教育センター運営会議において検討し、カリキュラムへの反映を図る予定である。

2022 年度に新設された地域基盤型医療人材育成センターの運営会議を開催し、2024 年度は本学教員、他大学教員および自治体職員から、本学の教育について広く意見を求めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 135 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 242 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒前教育と卒後の教育・臨床実践とのスムーズな連携のために、カリキュラム委員会と総合臨床研修センターの組織としての役割をより明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センター組織図に示すように、医学教育センターの構成員として総合臨床研修センター長が加わり、卒前・卒後のシームレスな教育による臨床実践へのスムーズな移行のために連携を強化した。総合臨床研修センターは、初期研修部門、専門研修部門、MS 連携部門の 3 つの部門に副センター長を置き、教育体制の充実を図った。専攻医、初期研修医、医学生、そのほかのメディカルスタッフ全員が利用できる、メディカルスタッフ研修室を予約システムも含めた整備を行い 2024 年 11 月から運用開始した。また、本院の初期研修医を対象として研修医セミナーは、県内の研修病院からの要望もあり、2024 年度から、本学の役割を果たすべく必修科目の中でもより特殊な専門的領域をテーマとして他院の研修医も参加可能としたハイブリット開催で実施している。今後は実施後アンケートも参考としながら、学生参加も検討する

予定である。また、コロナ禍で減少した指導医と研修医、医学生との交流の復興として「レジデント・ドクターズ交流会」を開催している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 243 メディカルスタッフ研修室の改修実績
- ・ 資料 244 【令和 6 年度】メディカルスタッフ研修室利用実績
- ・ 資料 245 令和 6 年度 研修医セミナー
- ・ 資料 246 レジデント・ドクターズ交流会開催のご案内

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生の働く環境や地域からの情報を体系的に確実に収集し、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県医師臨床研修対策協議会の一員として、対面の研修病院説明会、レジナビフェア、研修指導医ワークショップ、研修医ワークショップの開催運営に参加し、卒業生と各病院間の相互の進路情報共有の推進を図った。2024 年度から、「青森県における臨床研修が高い評価を得るために」の検討委員会を開催し、病院連携の強化、指導体制の充実、研修環境の整備、医学生との情報交換の推進を進めるための提言をまとめた。また 2025 年度より本学卒業生のキャリア形成支援を目的として、青森県地域医療支援センターと学内に分室を設置し、卒業生からの情報収集を積極的に行い、教育プログラムの改善を図る予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 247 令和 6 年度 青森県医師臨床研修対策協議会 事業実績
- ・ 資料 248 「青森県における臨床研修が高い評価を得るために」に関する検討委員会 ワーキンググループ 1～4 の提言
- ・ 資料 249 青森県地域医療支援センター設置要綱
- ・ 資料 250 【ポンチ絵】青森県地域医療支援センター（本県のキャリアコーディネート体制）について

3. 学生の評価

領域 3.1～3.2 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、再試験に関する規程整備を実施し、また臨床実習での教育による評価やフィードバックを強化するための FD を積極的に開始した。今後は、学年ごとの学修成果の達成度をモニタリングする体制を構築する

ことが課題である。

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 再試験に関する規程を整備して、開示すべきである。
- ・ 学生の知識、技能および態度を確実に評価し、ポートフォリオ等を用いて学年ごとに学修成果の達成をモニタすべきである。
- ・ 様々な評価方法と形式をそれぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないように規程を整備すべきである。
- ・ 評価が外部の評価者によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

再試験に関する規定は 2022 年度に「弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ」の中で定め、全学年のシラバスの中に記載している。

学生の知識、技能および態度の確実な評価ならびに学年ごとの学修成果の達成については「弘前大学医学部医学科の使命」のカリキュラム・ポリシーで規定され、医学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した形で「各学年のアウトカム」および「弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ」に定めている。今後は、各学年のアウトカムを医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に準拠した形に変更するとともに、各学年の学修成果の達成状況を着実に、かつ主観的、客観的に評価するためにポートフォリオ等の作成を準備中である。

高学年学生の知識、技能の評価およびフィードバックを強化するために、4 年次の臨床実習前 OSCE では結果を迅速にフィードバックし、不到達者については補講を積極的に実施し、最終的に再試験 OSCE の到達基準にもすべての受験生が到達した。6 年次に実施した総合教育演習Ⅲ（総合試験）ならびに国家試験 CBT トライアルの結果を迅速にフィードバックし、効果的な学修を促した。

臨床実習における評価では CC EPOC の導入を検討している。

評価方法および結果に利益相反が生じないような規定を整備する予定である。

評価の適切性については、学内他学部の教員や外部の評価者による評価を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科の使命
- ・ 資料 130 弘前大学医学部医学科各学年のアウトカム
- ・ 資料 101 弘前大学医学部医学科カリキュラムマップ、理念・目的等
- ・ 資料 302 臨床実習前 OSCE 再試前の練習機会について（基本的臨床手技）
- ・ 資料 303 臨床実習前 OSCE 再試前の練習機会について（医療面接）
- ・ 資料 304 臨床実習前 OSCE 再試前の練習機会について（救急）

- ・ 資料 305 総合教育演習Ⅲの実施について
- ・ 資料 306 総合試験（卒業試験）結果（揭示用）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・ 臨床実習に、MiniCEX、患者や多職種による 360 度評価等の多様な評価法を導入することが望まれる。
- ・ 学生の評価について学外臨床実習施設の指導医等、外部評価者を活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

評価の信頼性と妥当性を検証するために評価内容が医学教育モデル・コア・カリキュラムや医師国家試験のレベルから逸脱したものでないかどうか、医学科内で相互確認を行い、明示する。

臨床実習の主要な診療科において Workplace-based assessment としての形成的評価、総括的評価を実装し、運営している。今後は CC EPOC や患者、多職種による 360 度評価等、多様な評価方法を積極的に導入し、多面的で公正な評価、およびフィードバックによる学生の意欲向上を行う。

学外臨床実習施設における臨床実習の評価については、学外臨床実習施設の指導医が行っている。

アンプロフェッショナルな学生の定義を定め、学内外の教員・指導医に周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 307 臨床実習Ⅰ評価票（内科、外科、産婦人科、小児科）
- ・ 資料 235 弘前大学医学部医学科アンプロフェッショナルな学生の定義と対応に係る取扱要領

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 卒業時コンピテンシーと教育方法に整合した評価を実践すべきである。
- ・ 学生の学修を促進する評価を確実に実施すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価との適切な比率を検討し、学生の学修と教育進度を評価すべきで

ある。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2025 年 2 月に医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に即した「弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー」が承認された。「弘前大学医学部医学科の使命」の中で、それに沿った評価方法について定めている。また、2025 年度シラバスにはそれぞれのカリキュラムに対して医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）の対応番号を明記する。今後はこれらを実践、浸透させていくための方策を検討する。

学生の学修を促進するため、臨床実習では診療科ごとに指導医からの評価を行い、学生にフィードバックしている。また 4 年次の臨床実習前 OSCE の結果について迅速にフィードバックし、不到達者については補講を積極的に実施し、最終的に再試験 OSCE の到達基準にもすべての受験生が到達した。6 年次対象の国家試験 CBT トライアルに参画し、結果について迅速に 6 年次にフィードバックし、効果的な学修を促した。今後は教育課程における適切なフィードバックについて検討する。

学生の学修と教育進度を評価し、学修を達成する原動力とするために形成的評価を適切に行い、また形成的評価と総括的評価の適切な比率について検討していく。学修困難な学生を早期に発見し、適切なフィードバック、場合によっては補習教育を提供する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 107 弘前大学医学部医学科卒業時コンピテンシー【令和 6（2024）年度以降入学者】
- ・ 資料 103 弘前大学医学部医学科の使命
- ・ 資料 308 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医用）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、試験の回数と方法（特性）を適切に定めることが望まれる。
- ・ 学生に対して評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、公正なフィードバックを行い、学生の学修をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

試験の回数と方法については、「弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ」に規定している。カリキュラムごとの評価と回数については、シラバスに記載されている。統合的学修の促進のため、カリキュラムごとの形成的評価に加えて、各学年において統一試験を実施することを検討している。また、学生に膨大な量の暗記やカリキュラムでの過剰な負担を求めない配慮を行う。

CBT、臨床実習前 OSCE、総合教育演習Ⅲ（総合試験）については、迅速にその結果を受験生にフィードバックしている。臨床実習では、学生、指導医双方向からの評価を診療科ごとに行っている。指導医からは7つの項目について5段階で評価がなされ、さらに学生の将来的な学習に関しては自由記載で助言を行っている。学生からは5つの項目について5段階で自己および指導医の評価を行っている。これらのフィードバックを通して学生の学修をすすめることができたのか、その有効性については今後検討を行っていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 301 弘前大学医学部（医学科）専門教育科目試験申合せ
- ・ 資料 309 【学務・お知らせ】CBT（本試験）の結果配付について
- ・ 資料 310 【重要】臨床実習前 OSCE 個人成績表の配付について
- ・ 資料 306 総合試験（卒業試験）結果（掲示用）
- ・ 資料 308 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（指導医用）
- ・ 資料 311 弘前大学医学部医学科クリニカルクラークシップ評価表（学生用）

4. 学生

領域 4.1、4.3、4.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、本学の地域医療への貢献などの使命や、20 年後の医師に必要となる情報科学技術能力などの基盤となる能力を持つ学生を選抜する入学試験実施に向けて体制を構築した。今後は、入学した学生のカウンセリングおよび卒業生のフォローアップ体制の整備などが課題である。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全国最大規模となる学士編入学生の受け入れを行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

アドミッション・ポリシーには、「医学部医学科が求める学生像」に加えて、「入学志願者に求める学習の取組」および「入学者選抜の基本方針」をホームページ等に明記している。入学者選抜方法については、重点評価項目および評価要素についても記載している。

また、学士編入学生の受け入れを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 401 弘前大学医学部医学科入学案内（アドミッション・ポリシー）【HP】
- ・ 資料 402 令和 7（2025）年度弘前大学入学者選抜要項（P67、68）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2021（令和3）年度の新たな大学入試制度に対応して、アドミッション・ポリシーを見直した。

改善のための示唆

- ・ 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力をより詳細に関連づけることが望まれる。
- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度について規程を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「三つの方針」をホームページに明記し、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーを十分に理解し、学力、行動力、意欲を有する学生を求めていることを記載している。

学生募集要項に、キャリア形成卒前支援プランについて明示し、本学の地域医療貢献の使命との関連を明記している。

入学決定に対する疑義申し立て制度に関する検討を開始している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 403 弘前大学医学部医学科三つの方針【HP】
- ・ 資料 404 令和7（2025）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P11）
- ・ 資料 405 令和7（2025）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P38）
- ・ 資料 406 入学試験委員会次第

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入学者選抜において、全国最大規模の地域枠を設定し、青森県内を中心とした地域医療に貢献することを目指している。青森県と連携し、キャリア形成プログラム・キャリア形成卒前支援プランを設定し、入学後は地域医療の魅力、やりがいを醸成できる教育プログラムと関連づけている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 407 令和7（2025）年度弘前大学医学部医科学士編入学（第2年次）学生募集要

項（P1）

- ・ 資料 408 青森県キャリア形成プログラム 青森県キャリア形成卒前支援プラン

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域や社会からの健康に対する要請に合うように、多くの地域卒学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

青森県と連携したキャリア形成卒前支援プランでは、地域卒学生が入学後に受けられる卒前支援プロジェクト（教育プログラム）を設定している。

医師養成が地域・社会からの要請に応えられるように、青森県と連携してキャリア形成プログラムが設定されている。また、地域医療の維持確保に向けた三者協定（弘前大学、青森県立中央病院、青森県）を締結している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 404 令和 7（2025）年度学生募集要項〔一般選抜〕（P11）
- ・ 資料 405 令和 7（2025）年度学生募集要項〔総合型選抜〕（P38）
- ・ 資料 408 青森県キャリア形成プログラム 青森県キャリア形成卒前支援プラン
- ・ 資料 409 青森県地域医療維持確保に向けた医師派遣に関する三者協定書

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援する多様なプログラムを提供していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 学生を対象とした学修上の問題に対するカウンセリング制度をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修上の問題を有する学生について、学務委員会委員を中心にカウンセリングを実施している。また、全学の保健管理センターとも連携し、学生にカウンセリングの窓口を広く保っている。今後は、医学教育センター学生生活支援部門の活動を強化し、学生のカウンセリング制度を体系化する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 410 2024 年度留級者面談日程
- ・ 資料 411 医学科の学生相談について
- ・ 資料 233 医学教育センター運営会議議事要旨（令和 6 年 10 月開催）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学修支援にはキャリアガイダンスとプランニングも含める必要性があることから、青森県キャリア形成プログラムの説明会等を実施している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 412 青森県キャリア形成プログラム～令和 6 年度 6 年生進級時説明会等スケジュール～
- ・ 資料 413 弘前大学医師修学資金支援制度キャリア形成プログラム

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの策定および管理、学生に関する諸事項等について、学生の代表が各委員会に参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会を定期的に開催し、各学年の代表学生が適切に議論に加わっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ

- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部学友会、医学部学生自治会、弘前医ゼミに参加する会（HIZSK）などの学生の活動を推奨している。学生自治会との懇談会を開催した。2024 年 8 月には、弘前医ゼミに参加する会（HIZSK）が中心となって、弘前大学にて全国医学生ゼミナールが開催された。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 414 弘前大学医学部医学科学友会規約
- ・ 資料 415 弘前大学医学部学生自治会懇談会資料
- ・ 資料 416 第 67 回全国医学生ゼミナール（医学部ウォーカー第 111 号抜粋）
- ・ 資料 417 【開催報告】第 67 回全国医学生ゼミナール

5. 教員

領域 5.2 基本的水準における「改善のための助言」を受け、FD 活動の活性化を図り、共用試験公的化、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）への対応などの具体的テーマを取り扱った FD を開催した。今後は、講演会以外の形態での FD 開催が課題である。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学の教員ポイント制の枠の中で教育ニーズやバランスを考慮しつつ、教員の募集と選抜方針を策定して履行している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項」が策定されており、全学の教員ポイント制の枠の中で教育ニーズやバランスを考慮しつつ、教員の募集と選抜が履行されている。

る。

弘前大学大学院医学研究科教育・研究組織提言委員会において、基礎系・臨床系講座のあり方を検討し、その結果を研究科教授会に提言している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 501 弘前大学大学院医学研究科及び医学部教員選考実施要項
- ・ 資料 502 弘前大学大学院医学研究科教育・研究組織提言委員会に関する申合せ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療や被ばく医療といった地域に固有の重大な問題を踏まえた教員の選抜が、使命との関連性を考慮して行われていることは評価できる。
- ・ 全学的な教員ポイント制の制約の中、学内講師、研究教授等の職位や寄附講座の設置等により、経済的事項を考慮した教員人事が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

適正な教員配置を考慮しながら教員公募を行っており、診療教授等、教育教授等および研究教授等の職位や寄附講座の設置等により、経済的負担を考慮した教員人事を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 503 弘前大学医学部附属病院診療教授等の称号付与に関する内規
- ・ 資料 122 弘前大学医学部医学科教育教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 504 弘前大学大学院医学研究科研究教授等の称号付与に関する要項
- ・ 資料 505 大学院医学研究科常勤職員現員表

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学内で教員経験があり、FD を受けた者が、臨床教授等として学外臨床実習施設での指導を担当する体制が構築されている。

改善のための助言

- ・ 講演会だけでなく、ワークショップ等を含めた多様かつ実効性のある FD を実施し、教育に関する能力開発を促す機会を充実させるべきである。
- ・ 個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員の能力および資質向上を目的に FD を定期的に行っている。学生教育に関する FD は 3 回開催され、うち 1 回は秋田大学・弘前大学合同 FD として、両大学の教育実践を共有し、意見を交換した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 143 2024 年度医学教育センター主催 FD ポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生数の増加や臨床実習期間の延長に伴う教育ニーズの増加を考慮し、学外臨床実習施設における指導者の確保が行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学外臨床実習施設における指導者等に対して「医学部連携教育施設における FD」を 2 回開催した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 131 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ
- ・ 資料 506 令和 6 年度弘前大学連携教育施設 FD 配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）
- ・ 資料 507 令和 6 年度弘前大学連携教育施設 FD 配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）

6. 教育資源

領域 6.2、6.3、6.5、6.6 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学外臨床実習施設での学外 FD を積極的に実施するとともに、文部科学省支援事業等により、ICT に関連する設備を整備した。今後は、FD のオンデマンド化を進め、教員の指導負担軽減と指導能力の向上の両立を図ることが課題である。

6.1 施設・設備

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver. 2.36 の内容は以下のとおりである。

注釈

- ・ [安全な学修環境]には、有害な物質、試料、微生物についての必要な情報提供と安全管理、研究室の安全規則と安全設備が含まれる。

日本版注釈：[安全な学修環境] には、防災訓練の実施などが推奨される。

日本版注釈：[安全な学修環境] には、解剖用献体の適切な保管が含まれ、解剖体に関する記録ならびに保管は関係する法律や省令に定められている（医学及び歯学の教育のための献体に関する法律、医学及び歯学の教育のための献体に関する法律に基づく正常解剖の解剖体の記録に関する省令）。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

従来の外科・産婦人科・小児科に加えて、内科においても、学外臨床実習施設で地域基盤型の診療参加型臨床実習（5 年次全員）を行える体制となった。

学外臨床実習施設と連結した双方向の遠隔画像診断カンファレンスシステムを臨床実習にも導入し、多施設の臨床実習生・指導医が同時に参加する診療参加型臨床実習を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 601 クリニカルクラークシップ I 日程表
- ・ 資料 602 令和 6 年度「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」教育カリキュラムの実施状況（P2、6）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2024 年度にシミュレーター実習室を新たに開設し、臨床実習生（5 年次臨床実習 I・22 グループ・半日ずつ）を対象にシミュレーション実習を開始した。また、学生が自由にシミュレーター実習室を使用できるように整備を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 204 臨床実習 I（5 年次）におけるシミュレーター実習

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学外臨床実習施設やその指導者を確保することにより、地域医療およびへき地医療に関する幅広い臨床実習を可能としていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 各臨床実習施設における患者数と疾患分類について調査し、学生が適切な臨床経験を積めるような体制を確保すべきである。
- ・ 医学部附属病院だけでなく、学外実習施設の指導医についても FD 等をとおして指導能力を高め、臨床実習の質を担保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各講座に臨床実習における医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）への対応状況に関してアンケート調査を行い、臨床実習改善のための参考資料とした。

学外講師による臨床実習に関連した FD を開催し、効果的な臨床実習教育に関する医学教育学的知見、教育手法について教員の指導能力の向上に努めた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 143 2024 年度医学教育センター主催 FD ポスター（3 月 5 日開催）
- ・ 資料 131 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療の中核を担う学外実習施設（連携教育施設）において、指導力向上と臨床実習の質改善を図るため、FD を開催した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 131 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD の開催について
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ
- ・ 資料 506 令和 6 年度弘前大学連携教育施設 FD 配布資料（弘前大学における医学教育の現状について）

- ・ 資料 507 令和 6 年度弘前大学連携教育施設 FD 配布資料（診療参加型臨床実習の現状について）

6.3 情報通信技術

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 情報通信技術の利用状況や、それを利用した学修状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学分野での情報通信技術に関する基本的な事項に関して、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に新規に加えられた資質・能力である「科学技術を活かす能力」に対応して、昨年度再構築した 1 年次の医用システム工学概論を今年度も実施した。

弘前大学・秋田大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学が連携し、文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」「多職種連携と DX 技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業が行われており、令和 6 年 12 月 20 日にシンポジウムが開催され、DX 推進と学生の学修状況を確認した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 603 医用システム工学概論シラバス
- ・ 資料 604 第 3 回「多職種連携と DX 技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ」事業シンポジウムポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 自己学習のための新たなオンライン学修支援システムを構築している。

改善のための示唆

- ・ 保健医療提供システムにおける業務に関する情報通信技術の活用をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度補正予算文部科学省「医学部等教育・働き方改革支援事業」により 2023 年度に OSCE 実施支援システムを導入した。また、OSCE 運営の際の評価を円滑に実施するために、動画撮影と連携した評価票の記入が可能かつ一元的にクラウド保管・管理可能な情報通信システムを構築している。

また、画像診断遠隔カンファレンスシステムを導入し、本学医学部附属病院と青森県、秋田

県および北海道内の臨床実習施設等をつなぎ、放射線画像についての双方向的な議論が可能となる環境を構築している。

引き続き、本学が主導する大規模住民合同健診である岩木健康増進プロジェクトにおいて、弘前市等の行政組織とデジタルプラットフォームを通じて連携し、研究を実施する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 605 令和 4 年度大学改革推進補助金（医学部等教育・働き方改革支援事業）交付申請書
- ・ 資料 606 OSCE 実施支援システム機能仕様書
- ・ 資料 607 画像診断遠隔カンファレンスシステム導入に関して

6.4 医学研究と学識

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究と教育が関連するように育む方針に基づき、4 か月にわたる「研究室研修」が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研究室研修を継続し、医学生の医学研究に関する素養を育む。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 207 特別教育科目（研究室研修）シラバス
- ・ 資料 608 2024 年度 研究室研修／医学英語Ⅲ 発表会スケジュール

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.5 教育専門家

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム開発や教育技法および評価方法の開発について、教育専門家の利用についての方針を策定し、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省公募のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業により、特任教授 1 名・准教授 1 名に加えて、高度医療人材養成拠点形成事業（2024 年度）において、准教授 1 名の計 3 名を医学教育学講座専任教員として配置した。

カリキュラム開発を行う医学教育改善 WG、教育カリキュラム検討 WG、クリニカル・クラークシップ WG のメンバーには、医学教育学講座専任教員が加わっている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 609 医学研究科契約職員等現員表
- ・ 資料 505 大学院医学研究科常勤職員現員表
- ・ 資料 610 医学教育改善 WG 委員名簿
- ・ 資料 118 弘前大学医学部医学科教育カリキュラム検討 WG 委員名簿
- ・ 資料 120 弘前大学医学部医学科クリニカル・クラークシップ WG 委員名簿

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療に関する学部教育を展開する地域基盤型医療人材育成センターには、教育カリキュラム専門部会および事業評価専門部会が設置されており、学外（他大学）の教育専門家が委員として加わっている。

教育評価や医学教育分野の研究における最新の専門知識に注意を払う目的で、富山大学、新潟大学、高知大学、筑波大学へサイトビジットを行い、さらに筑波大学からのサイトビジット受入により、各大学の教育専門家と意見交換を行っている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 138 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議の専門部会設置に関する申合せ
- ・ 資料 139 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 141 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議事

業評価専門部会委員名簿

- ・ 資料 237 富山大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 238 新潟大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 239 高知大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 240 筑波大学へのサイトビジット（報告）
- ・ 資料 611 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業令和 6 年 9 月 9 日（月）筑波大学からの来校（弘前大学へのサイトビジット）スケジュール

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 国際交流研究委員会を設置し、国外教育機関・医療機関への教職員ならびに学生の派遣、受け入れを進めている。

改善のための助言

- ・ 国外機関だけでなく、学内他学部を含め国内の教育機関との交流を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

2022 年度に、秋田大学を連携校、弘前市内の医療系私立大学を協力校として採択された文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」により、学内他学部を含め国内の教育機関との連携を強化した。

2024 年度には、本学医学科学生、保健学科学生、弘前学院大学および弘前医療福祉大学の学生が参加する多職種連携ワークショップを開催した。また、本学医学科 1 年次、保健学科看護学専攻の学生が合同で実地学修する附属病院内早期体験実習を開講した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 612 大学コンソーシアム学都ひろさき 医療系多職種連携合同演習実施スケジュール
- ・ 資料 226 臨床医学入門シラバス
- ・ 資料 613 令和 6 年度臨床医学入門 -早期体験実習（E.E.）要項-学外病院・クリニック [1 年次]
- ・ 資料 614 2024 年度臨床医学入門 -早期体験実習（E.E. : Early Exposure）基礎看護学実習 I 実習要項（共通部分）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の国内外（国際）交流事業の一環として、2024 年度はハワイ大学夏期研修、米軍三沢病院夏期研修、台湾馬偕紀念醫院での臨床実習が行われた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 615 学生だより（医学部ウォーカー第 111 号抜粋）

7. 教育プログラム評価

領域 7.1～7.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、IR 部門の活動を実質化し、またプログラム評価委員会を定期開催し、カリキュラムのさらなる改善に向けてのプログラム評価体制を構築するとともに、今後は、各学年のアウトカムの達成度を定期的に評価するシステムの構築が課題といえる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の入学試験の成績や入学後の各試験の成績、GPA 等に関するデータの収集、管理を行っている。

改善のための助言

- ・ IR 部門とプログラム評価委員会の活動を実質化し、カリキュラムと学修成果を定期的にモニタする仕組みを設け、評価の結果をカリキュラムに反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科シラバスについて、医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度版）のほぼすべての項目が網羅されていることを確認した。

今後は、医師国家試験の結果と卒業までの本学の教育カリキュラムにおける学生の学修成果等との関連について検討を行うとともに、卒業時コンピテンシーや医学教育モデル・コア・カリキュラムと連結された各学年のアウトカムの達成度を定期的に評価するシステムを構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨（令和 7 年 1 月開催）
- ・ 資料 128 （1～4 年・講義）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）
- ・ 資料 129 （5～6 年・臨床実習）コアカリ選択表 医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 年度改訂版）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域医療や被ばく医療も含めた学修成果、長期間で獲得される学修成果についてデータを収集し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育学講座（2022 年度設置）に所属する教員が IR 部門との連携を強化し、本学の特色である地域医療教育、災害被ばく医療教育等において学生が獲得するアウトカム（長期的アウトカムを含む）について、データを継続的に収集し、包括的にプログラム評価を実施する体制を構築する。

医師国家試験の成績と学生の背景について検討し、留年した学生と医師国家試験不合格者との相関が得られた。留年者の減少を目的に、入学後の生活背景や勉学状況などを低学年からサポートするための体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 701 弘前大学医学部医学科における入試成績、1 年次 GPA 等を活用した入学後の学修支援体制の構築（案）

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学務委員会のメンバーが 6 年次学生全員と面談を行い、学生自治会との懇談会も実施して学生の意見や要望を直接聴取している。

改善のための助言

- ・ 教育プログラムに関する分析・対応を可能にするため、教員と学生からのフィードバックを系統的に求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

オンライン化された学生からの教育評価アンケート制度について、回収率の向上に向けて、集計からフィードバックまでの効率化を図った。今後は、アンケート結果についてプログラム評価委員会等にて分析を実施し、カリキュラム委員会にて授業の改善を図る体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 702 令和 6 年度前期「教育評価アンケート」実施について（依頼）

- ・ 資料 703 教育評価アンケート実施マニュアル（2024. 05. 30 版）
- ・ 資料 704 （掲示用・1～4 年前期）教育評価アンケートの実施について

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2 年次における教育の過密を避けるために学生から意見を聞いている。

改善のための示唆

- ・ 系統的なフィードバックの結果を利用して教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会に参加した学生委員や、自治会学生からのヒアリングにより、学生の視点からのフィードバックがリアルタイムに聴取される体制が構築されている。学生の体系的な学修、定期試験の過密などを避けながらのカリキュラムの水平的統合・垂直的統合を推進している。

卒業生の意見をもとに、5・6 年次学生の臨床実習の開始時期を前倒しし、結果的に臨床実習終了時期を早めることができ、医師国家試験対策に向けた学修の確保につながった。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 135 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 136 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 137 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 705 6 年次を対象としたクリニカルクラークシップについてのアンケート結果
- ・ 資料 119 教育カリキュラム検討 WG 議事要旨
- ・ 資料 706 2025 年度クリニカルクラークシップ I・II スケジュール
- ・ 資料 219 医学部医学科カリキュラムたたき台【令和 8 年度 1～4 年生】

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの変更や PBL の導入等により、意図した学修成果が達成されているか学生と卒業生について調査し、分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生をフォローアップするシステムを構築しており、本学の教育カリキュラムについて毎年アンケート調査を実施している。

各学生の学修成果については、授業科目ごとにデータが蓄積され、さらには毎学年 GPA が算出されている。

カリキュラムの変更が学生や卒業生の学修成果（特に医師国家試験等）に与えた影響について調査する体制構築を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 707 医学部医学科 2024 年度 GPA データ
- ・ 資料 708 2024 年度 卒業生に対するアンケート調査 実施概要
- ・ 資料 709 2024 年度 医学科卒業生アンケート調査

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域枠や学士編入学等の入試種別や学生の背景に応じた、学修成果の達成状況を学生と卒業生について分析し、責任ある委員会に時宜を得たフィードバックを行い、教育改善につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR 部門により、学生の背景に応じた成績評価を実施した。

医師国家試験の成績と学生の背景の関連およびその対策について、学務委員会等で検討した結果をもとに、サポートを要する学生を早期に識別し、適切な支援を行う体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 701 弘前大学医学部医学科における入試成績、1 年次 GPA 等を活用した入学後の学修支援体制の構築（案）

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会に各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ プログラム評価委員会に教育に関わる主要な構成者を含め、教育プログラムのモニタと評価を確実に行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会に各学年の学生委員を加え、定期開催した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ
- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 137 プログラム評価委員会議事要旨
- ・ 資料 117 令和 6 年度 学務委員会・プログラム評価委員会・カリキュラム委員会及び各実務者会議開催実績

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育プログラムのモニタと評価を確実にに行い、その結果を広い範囲の教育の関係者が閲覧できるようにすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

文部科学省大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に関連する教育プログラムについて、地域基盤型医療人材育成センター運営会議および教育カリキュラム専門部会を開催し、プログラムの成果について幅広い関係者に周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 710 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議委員名簿
- ・ 資料 242 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 139 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会委員名簿
- ・ 資料 140 弘前大学大学院医学研究科附属地域基盤型医療人材育成センター運営会議教育カリキュラム専門部会議事要旨

8. 統括および管理運営

領域 8.1、8.2、8.4 における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学教育センター内の部門の機能分担を推進した。今後は、各部門の委員会に地域の他大学や学内の他学部の教育関係者が参加できる体制を構築することが課題である。

8.1 統括

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育に関するほぼすべての業務を医学教育センターに集約しているが、その下部組織である部門の位置付けを明確にすべきである。
- ・ 医学部および全学の IR 部門の機能と役割分担を明確にして、データを集積し有効活用すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターの 8 部門の機能分担を明確化するとともに、各部門が効率的に活動できる体制を構築した。定期的に医学教育センター運営会議を開催し、さらなる改善を検討している。

医学教育センターIR 部門に医療情報学の専門家が加わり、機能を強化しつつ、全学 IR 部門との連携も進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 110 医学教育センター組織図
- ・ 資料 233 医学教育センター運営会議議事要旨

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関する委員会組織に、主な教育関係者やその他の教育関係者の意見を反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教学に関する委員会組織（カリキュラム委員会、学務委員会、プログラム評価委員会）に各学年から選出された学生代表が入り、学生の意見を反映する体制が構築された。さらに、医学教育専門家の教員がオブザーバー参加する体制を構築した。

定期的に弘前大学医学部連携教育施設における FD を開催し、学外教育施設の指導医等の意見を聴取できる体制を構築した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 111 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会に関する申合せ
- ・ 資料 112 弘前大学医学部医学科カリキュラム委員会委員名簿
- ・ 資料 113 弘前大学医学部医学科学務委員会申合せ
- ・ 資料 114 弘前大学医学部医学科学務委員会委員名簿
- ・ 資料 115 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会に関する申合せ

- ・ 資料 116 弘前大学医学部医学科プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料 132 令和 6 年度弘前大学医学部連携教育施設における FD チラシ

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部長、講座の主宰者、医学教育センター長およびその部門長、教学関係の委員会委員長等の教学のリーダーシップの評価を、使命と学修成果に照合して定期的に行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育センターをはじめとする教学関連の各リーダーの活動（リーダーシップ等を含む）に関する自己評価を導入した。任期更新の際に必須の評価項目に入れることを検討中である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 801 【依頼 医総務】令和 6 年度 教学における執行部の自己評価について
- ・ 資料 802 令和 6 年度 教学における執行部の自己評価（弘前大学医学部医学科）

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

公益社団法人 青森医学振興会の援助を受け、医学教育環境の改善に努めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 803 令和 6 年度事業計画等について（通知）

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療に関連する 6 つの寄附講座を開講して、地域医療の向上に努めていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療関連の寄附講座と連携しつつ、継続的に地域医療の向上に取り組んでいる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 505 大学院医学研究科常勤職員現員表

8.4 事務と運営

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究科事務部は学務グループと総務グループからなり、学事に関する事務全般、入試、国際交流等、多岐にわたる業務を担当している。

改善のための助言

- ・ 円滑な業務を遂行するために事務部門をより一層充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学務グループに事務職員を配置し、人的資源を強化した。今後は、学務事務職員に医療者教育学に関連する講習受講などを推奨し、専門性の高い知識を持った職員を養成する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 804 2025 年度実施に向けた医学生共用試験 OSCE（前・後）全国説明会参加申込フォーム
- ・ 資料 805 2024 年度医学生共用試験 OSCE（前・後）模擬患者団体向け全国説明会出欠確認
- ・ 資料 806 令和 6 年度医学生共用試験 CBT 統括実施責任者等講習会参加申込
- ・ 資料 807 2026 年度医学生共用試験 CBT 問題作成に関する説明会参加申込

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 弘前大学における組織評価を毎年行っており、機関別認証も定期的に受審している。
- ・ 事務職員および技術職員の評価を実施している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学務事務職員に医療教育学に関与できる事務体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 青森県や弘前市をはじめとする自治体の保健医療部門や保健医療関連部門と積極的な交流を図っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

自治体の保健医療部門や保健医療関連部門との積極的な交流を持続展開している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 808 令和 6 年度弘前大学医学生地域医療早期体験実習パンフレット（青森県）
- ・ 資料 809 青森県医師臨床研修病院合同説明会ポスター

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「岩木健康増進プロジェクト」、「いきいき健診」等で、スタッフと学生が保健医療関連部門と協働して活動していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

「岩木健康増進プロジェクト」および「いきいき健診」等の活動を継続している。前者はさらに弘前市民にも対象を広げ拡大展開している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 810 2024 年度 岩木プロジェクト健診 実施報告
- ・ 資料 811 2024 年度 いきいき健診
- ・ 資料 812 岩木健康増進プロジェクト健診参加者募集（広報ひろさき）

9. 継続的改良

領域 9 基本的水準における「改善のための助言」を受け、医学教育センターを構成する部門の活動を実質化し、学生委員を含む委員会を定期開催した。カリキュラムの水平的統合・垂直的統合を促進するための検討を開始した。今後は、学修成果の達成度の継続的な評価のための体制を構築することが課題である。

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラム、構造、内容、コンピテンシー、プログラム評価ならびに学修環境を定期的に見直し、課題を特定して継続的に教育改善を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム、カリキュラムの構造、教授内容、コンピテンシー、学修環境を定期的に見直すとともに、プログラム評価を継続的に実施し、見出された課題を特定して継続的に教育改善を行う。現在、教育カリキュラムの水平的統合・垂直的統合を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 109 医学部医学科教学 PDCA サイクル図
- ・ 資料 233 医学教育センター運営会議議事要旨
- ・ 資料 135 カリキュラム委員会議事要旨
- ・ 資料 136 学務委員会議事要旨
- ・ 資料 137 プログラム評価委員会議事要旨

質的向上のための水準：評価を実施せず

特記すべき良い点（特色）

- ・ 評価を実施せず

改善のための示唆

- ・ 評価を実施せず